

経営比較分析表（令和6年度決算）

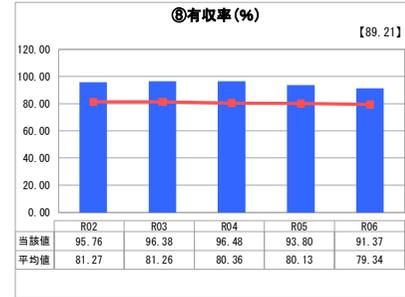
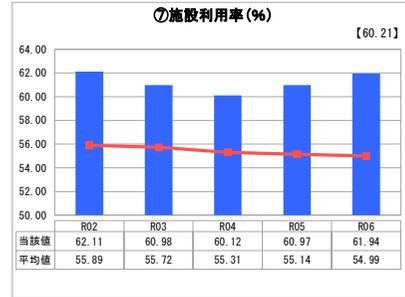
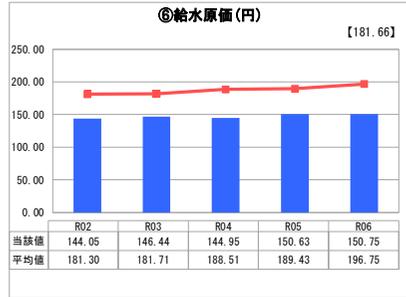
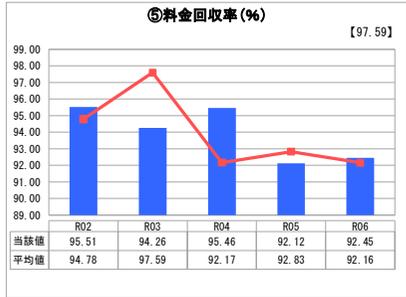
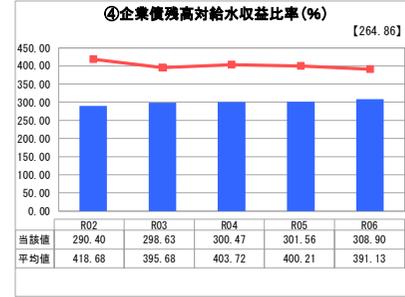
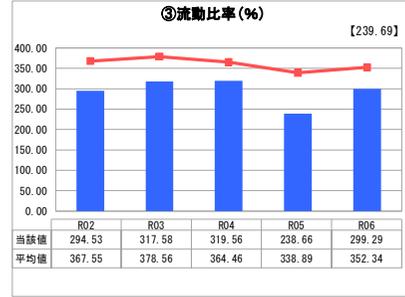
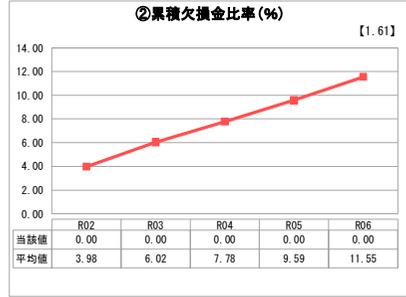
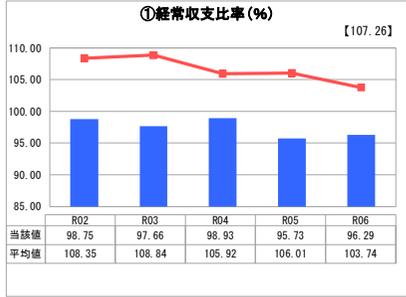
埼玉県 川島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	72.48	99.95	1,966	

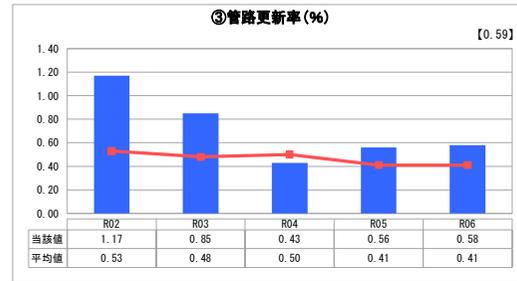
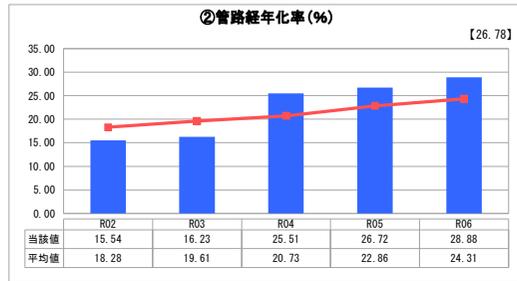
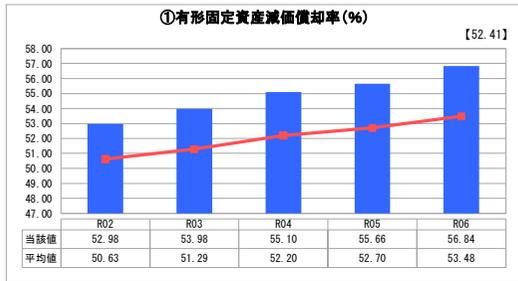
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,671	41.63	448.50
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,603	41.63	446.87

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、自己水を増量するなどにより支出を減らしていますが、老朽化施設及び配水管耐震化事業により減価償却費が増加し、100%を下回っています。
 ②累積欠損金比率は0が続いていますが、今後施設の老朽化による更新投資が必要となることから、継続して費用の削減を努める必要があります。
 ③流動比率は令和5年度に減少していますが、管路更新に伴い企業債の借入を行っているため、再び増加しました。
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均に比べると低い状況です。今後も配水管耐震化の財源として企業債の借入を行うため、増加することが見込まれます。
 ⑤料金回収率は100%を下回る傾向にあります。今後想定される施設の維持や修繕等の費用を見込んだ適正な供給単価とするため、令和7年10月1日に料金改定を行いました。
 ⑥給水原価は、類似団体平均より低い状況です。この状況を保つため、引き続きコスト削減を進めていきます。
 ⑦施設利用率は、類似団体平均と比べると高い状況にあります。今後の給水人口の減少等を踏まえ、施設や管路のダウンサイジングを検討していきます。
 ⑧有収率は、類似団体平均と比べると高い状況にあります。しかし、有収率が減少傾向にあるため、引き続き早期の漏水発見、修繕を行っていきます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は上昇傾向にあり、施設の老朽化が進行しています。計画的に償却対象資産の更新を行っていきます。
 ②管路経年率は、大規模な宅地開発等で布設した配水管が法定耐用年数を超えたため、高い状況となっています。計画的に管路の更新を行っていきます。
 ③管路更新率は、類似団体平均と同水準になっています。現在、配水管耐震化事業で管路を順次更新しています。しかし、物価高騰等により工事費が増加し、更新距離が減少したことから管路更新率が低くなっています。今後も計画的に管路の更新を行っていきます。

全体総括

経営面では、企業債借入について、償還金残高や利息水準などが適切になるよう努めます。また、漏水など水の無駄が生じないように引き続き取り組んでまいります。
 浄水場施設や配水管では、配水管耐震化事業のほか、アセットマネジメント結果などに基づき老朽化施設の更新を進めます。また、水の使用量低下について、将来の水需要に合わせた施設のダウンサイジングを検討します。

町では、水道事業ビジョンや経営戦略などに基づき、水道事業経営について検討を重ねています。これからも、みなさまが安心して水道をご使用できますように水道事業経営に努力します。

経営比較分析表（令和6年度決算）

埼玉県 川島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	76.89	52.26	83.46	1,540

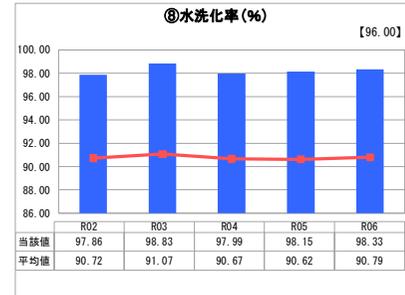
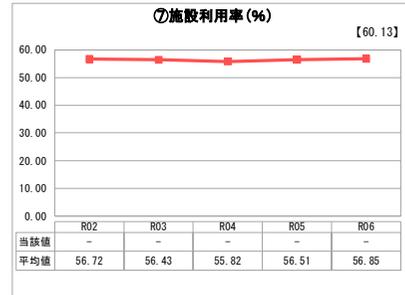
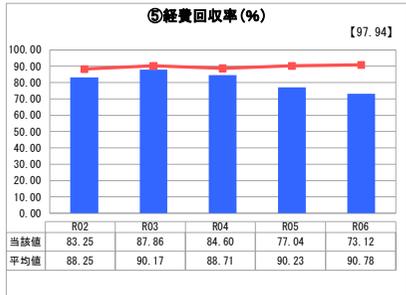
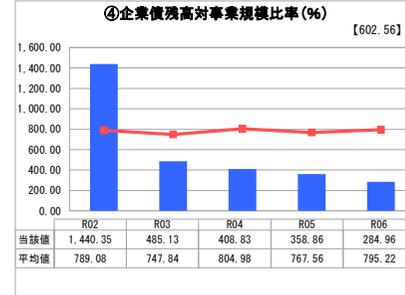
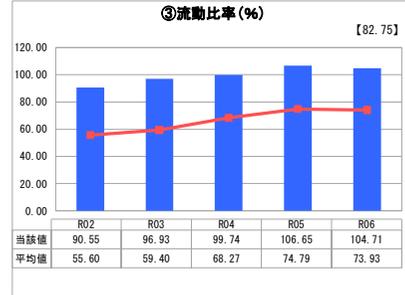
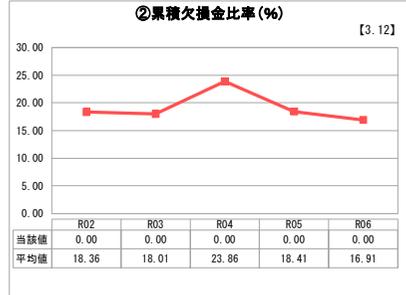
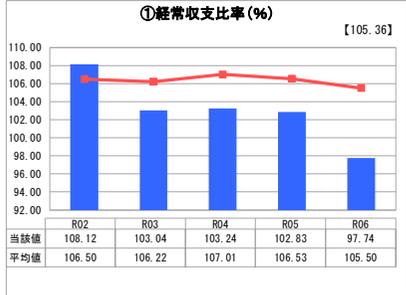
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,671	41.63	448.50
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
9,727	3.25	2,992.92

グラフ凡例

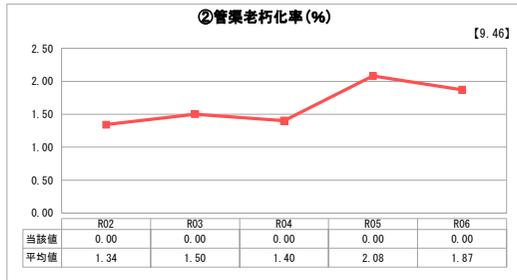
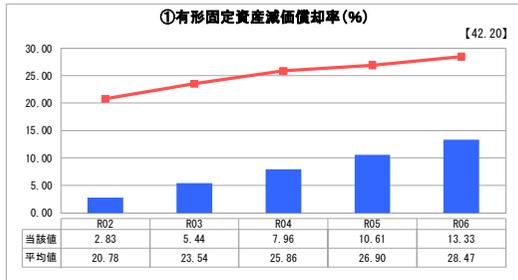
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率について、100%を下回りました。これは、下水道事業に伴う維持管理や事務に関する支出が、下水道使用料等の収入を上回ったことによるものです。ただし、前年度までの利益分により補うことができたため、累積欠損金の発生には至っていません。経費回収率についても100%を下回っていません。下水道使用料のみでは事業経費を賄いきれず、補助や一般会計からの繰入金により事業を行っている状況です。

流動比率について、令和5・6年度は100%を上回りました。しかし現金預金残高だけを比較すると、令和3年度以降、徐々に減少しています。企業債務高対事業規模比率について、全国平均、類似団体平均の双方を下回っていますので、償還しなければならない企業債の残額と現在いたく使用料収入額との差は他と比較して小さい状態です。ですが今後、管路施設の老朽化に伴う更新費用を賄うために企業債を借入すると、この幅は変化すると推察されます。

汚水処理原価について、全国平均、類似団体平均の双方を下回っていますが、額は徐々に増加しています。管路施設の修繕や調査などの維持管理等に、次第にコストがかかり始めているためと考えられます。

水洗化率について、少しずつ上昇の傾向にありますが、まだ目標とする100%には達していません。今後も引き続き未接続の世帯へ指導を行い、水洗化率の向上を図っていきます。

2. 老朽化の状況について

令和6年度末の時点において、法定耐用年数を経過した管路施設はありません。しかし今後は、法定耐用年数を経過する施設が順次発生します。

現在、ストックマネジメント計画に基づく管路施設の点検調査を実施しており、老朽化の進行状況や劣化の有無を確認しています。その結果、修繕を要する箇所があった場合は、緊急度の高い箇所から修繕を実施していきます。

また、広範囲にわたり老朽化が進行している管路施設が確認された場合は、更新工事を計画的にすることで費用の平準化を行い、下水道事業経営に過大な影響が及ぶことのないように努めます。

全体総括

令和5年度に川島町下水道事業経営戦略改定を行い、令和15年度までに「経費回収率100%」「下水道使用料1年分を超える内部留保資金の確保」の達成を目標に定めました。令和6年度に町議会において下水道使用料の改定について議決し、令和7年10月1日から新しい下水道使用料となっています。

下水道管路施設を長い期間使用することに伴い、修繕や老朽化把握のための調査費用維持管理など維持管理費の増加、今後発生が予測される老朽化の管路の更新工事などに備え、支出において経費の見直しと削減を実施し、収入において適切な下水道使用料の検討を定期的に行い、持続可能で安定した事業の経営を行ってまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみを類似団体平均値及び全国平均を算出しています。